中国ミッション

本格的な交流を再開、中国の現在を体感

グローバル化推進委員会は３月18～21日の日程で、中国ミッションを派遣した。池田潤一郎委員長を団長に、団員８人、随員３人、事務局２人の計13人がミッションに参加、首都・北京と物流・製造拠点として名高い重慶の二都市を訪問した。

程永華・中国日本友好協会常務副会長、袁敏道・中国人民対外友好協会副会長を表敬

新型コロナウイルス感染症の拡大により、日中間の相互往来が途絶えていたことから、2019年12月以来およそ４年ぶりの訪中となる。そこで今回は、中国の交流団体、カウンターパートとの交流・対話チャネルの再開を図ること、中国の経済社会の最新情勢や産業・イノベーションの現状を把握することを目的に据えた。

日本において一般的なメディア情報を通じて接するのは、米中摩擦とデリスキング、改正反スパイ法による邦人拘束問題など、二国間関係の負の側面が多い。本委員会では、さまざまな課題・リスクを念頭に置きつつも、企業経営者として中国の現在を体感し、日本として、また各企業として中国とどう向き合うか、虚心坦懐に考える機会が必要という問題意識を共有している。また本会は、コロナ禍以前のミッションや調査を通じて、中国の変化の速さ、特に新しいサービスの普及やテクノロジーの社会実装のスピード感に注目し、日本として学ぶべき点は学ぶという姿勢で中国に臨むスタンスで活動してきた。そこで今回は、４年間の空白期間に中国の実情がどのように変化し、また産業・イノベーション力がどこまで進化を遂げているかに注目し、訪問を企画した。

現地では中央・地方それぞれの政府関係者、日中交流団体、現地日本関係者と懇談を行った他、10年来交流を続けている中国中信集団（CITIC）幹部との交流、自動運転・電気自動車製造（EV）分野をリードする主要企業を訪問した。

４年ぶりに訪問した中国では、コロナ禍以前と変わらないダイナミズムとスピード感、さらに独自の競争力、イノベーション力を磨く企業の気概に強い印象を受けた。一方で地域間、業種間、また国有企業と民間企業など、それぞれの課題や優先順位を持つ多面性に満ちた国であることを、あらためて認識した。日本側も多面的な目で中国の現在を捉え、さまざまなステークホルダーと互いの経験、知見、課題を共有し、「中国観」を絶えずアップデートすることが必要だ。

ともすれば中国の負の側面のみがクローズアップされがちだが、企業経営者が自ら中国を訪れ、経済社会の実態を見て、率直な対話をして中国観を鍛えることが重要である。

日程	（所属・役職は実施時）
3月18日 北京	金杉憲治・中華人民共和国駐箚特命全権大使表敬 中日友好協会、中国国際経済交流センター有志との夕食懇談会
3月19日 北京	中国日本商会との朝食懇談会 李飛・商務部副部長表敬 ※二手に分かれて行動 第１団：曾琪・中国中信集団副総経理、幹部との昼食懇談会 第２団：JETRO北京事務所との昼食懇談会 Apollo Park視察（検索大手・百度の自動運転開発施設） 程永華・中国日本友好協会常務副会長、袁敏道・中国人民対外友好協会副会長表敬、夕食懇談会
3月20日 重慶	長安汽車視察（新エネルギー車） 高田真里・在重慶日本国総領事表敬、夕食懇談会
3月21日 重慶	胡衡華・重慶市長表敬